

にかけたスッペンペンハムリン、カンカラカンとケペソのおすし、それにペリリンポロロスッペンポなど、ポンタのすきなもののばかりがいっぱいならんでいます。

「わあーい、ぼく、きょう、ポンポコ日でうれしいなあ」

「ぼくも、きょう、ポンタがポンポコ日で、ちょっとうれしいかなあ」

と、ポンタとおにいさんが競争でポンポコポニヤスッパンのサクランポのあるところをほおぼっていると、

「ポンタ、ポンポコ日おめでとう」

おじさんが、いとこのポボンちゃんをつれてやってきました。

「あ、ポボンちゃん」

ポンタはちょっとあかくなります。ポンタより一つ年下のポボンちゃんは、しっぽの先が白くてまるくて、とってもちわいいのです。

「ポンタクん、ポンポコ日おめでとう」

と、ポボンちゃんにヤッポラギクとソントタの大きな花束をさしだされて、ポンタはますますあかくなりました。

「ありがとう」

といったとたんに、つい、ポンポコポニヤスッパンのなかのあんまりすきでないレジレジをのみこんでしまったのですが、でも、なんだかきょうはレジレジまでが、いつもとちがう味がしました。

「さあ、ポボンちゃんたちも、すわって、すわって」

と、おかあさんが、おいわいポコシャンとポッポコケーキをはこんできます。

「うわあい、ぐふふふふ、いただきまーす」

と、ポンタが声をあげたそのとき、

「おう、ポンタ、あそびにいうぜ」

いつもの声が出てキツネのツネヒロがやってきました。

「あれれえ、すごいごちそう」

おおげさにおどろいた声をあげるツネヒロのようすをみて、ポンタはちょっといらいらします。もちろん、ツネヒロは、きょうがポンタのポンポコ日だということを知って、やってきているのです。それなのに、わざとらしく、

「へええ、それにポボンちゃんも来てるんだ」

なんていって、テーブルの横につっ立ってるから、

「ツネヒロくんもよかったら、いっしょにポンタのポンポコ日をいわってやってください」

なんて、おとうさんが声をかけることになるのです。

「うわああ、いったまーす」

ツネヒロはポンタに「おめでとう」もいわずに、かっさにポボンちゃんの横にすわりこんで、おいわいポコシャンをすごいいきおいで食べはじめました。

ポンタがツネヒロのことを、「ともだちだけど、ちょっと、きらい」と思ってしまうのは、こんなときです。